

諫早市小中学校各PTA（育友会）会員の皆様へ

子どもたちは待ちに待った夏休みが始まり、大雨が続いた梅雨も明けようとして、また元気に外を駆け回る姿が目に見えかけます。そのような中、新型コロナウイルス感染者が再び急増しているのも事実です。会員の皆様方におかれましても、日々の生活の中で様々な感染予防策を実施しながら発生情報に耳を傾けているかと思います。

先日、私がテレビを見ていましたら目に飛び込んできたのは、新型コロナウイルス感染者に対する差別のニュースでした。誹謗中傷、名誉毀損、脅迫、器物損壊。私は愕然とし、とても悲しくなりました。それと同時に子どもたちはこのような行動をする大人を見てどう思うのだろうかと思いました。誰もが感染しないように、感染させないように気をつけているのはわかりますが、感染してしまった人もすきで感染した訳ではありません。感染予防に気をつけていても感染してしまう場合もあるかと思います。

考えてみて下さい。自分や家族が感染し周りの人から差別されたときの事を。そして我が子が差別やいじめを受けているときの事を。

わがまち諫早でも感染者が増えている中、今、我々大人がどのような発言を、どのような行動をしなければいけないのか。今こそ、いじめや差別に対する家庭教育のよい機会だと思います。ご家庭でも感染してしまった方に対する気持ちや考えを子どもたちと一緒に話し合ってみてください。子どもたちが間違った考えや行動をおこさないように我々大人が導いてあげましょう。

子どもたちは大人の姿を見ています。親や先生の行動や言動が、正しいと思ってしまう。コロナ禍の今、大人としてできる事は何か。今だからこそやるべき事は何か。

今こそ子どもたちへ、人に対する本当の「思いやりの心」や「優しさ」を伝えるときではないでしょうか。

令和2年7月29日

諫早市PTA連合会 大野 幸雄